

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 27 日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24590611

研究課題名(和文)被災地等における街づくりと連動した地域包括ケアの確立方策

研究課題名(英文) Measures for establishing comprehensive community care systems linked to community development in disaster areas and local communities

研究代表者

浜田 淳 (HAMADA, Jun)

岡山大学・医歯(薬)学総合研究科・教授

研究者番号：70334886

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、被災地や中山間地域等で、医療、介護のサービスを適切に提供する「地域包括ケア」の体制を構築するための方策を明らかにすることである。大震災の復興に関する岩手県の委員会に参加し、岡山県や各市町村の関係者と医療・介護問題の解決方策を検討し、サービスの質に関する研究を実施した。岡山大学において地域医療の教育、研究を行った。

今後は都道府県の地域医療構想、市町村の地域包括ケア計画の策定と実現が重要な課題になるが、大学人が自治体職員をデータ分析等で支援し、地域における医療、介護の議論において調整役を果たし、関係者と連携しながら議論をリードしていくことが不可欠であることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to explore measures for establishing comprehensive community care systems which provide medical and nursing care services properly to disaster areas and local communities. We participated in the committee of Iwate Pref. on reconstruction after the great earthquake. We also had meetings with persons concerned of Okayama Pref. and municipalities to discuss the solution of medical and nursing care service problems, and conducted a study on the quality of nursing care service. In addition, we conducted education and study in Okayama University on the community health care.

We concluded that in order to plan and establish the proper comprehensive community care system, researchers at universities are expected to support the personnel of municipal government on data analysis, to serve as coordinators in the discussion on medical and nursing care services in local communities, and to lead the discussion to the proper direction collaborating with persons concerned.

研究分野：医療政策・医療経済学

キーワード：地域包括ケア 被災地 中山間地域 地域医療構想 在宅医療・介護

1. 研究開始当初の背景

・2011年の東日本大震災の被災地では、医療・介護分野の復興とともに、新たな街づくりと連動して医療、介護から街づくりまでを含む「地域包括ケア」の仕組みを構築することが課題となっていた。

・政府の「税と社会保障の一体改革」では、サービスを必要とする人の立場にたって地域医療や介護サービスの充実などの「地域包括ケア」をめざすことが明言されていた。

2. 研究の目的

・この研究は、地域包括ケアの成功例を総合的に検証するとともに、被災地等の自治体と連携しながら、被災地や中山間地域など地域包括ケアの確立が喫緊の課題となっている地域の取り組みにも主体的にかかわり、住民や関係者とともに、新たな街づくりの中で地域包括ケアを実現することを目的としている。

3. 研究の方法

(1)平成24年度には、岩手県で「岩手県復興に向けた医療分野専門家会議」と「県立病院事業経営委員会」に参加し、医療、介護分野の被害の状況と復興状況を認識しながら、三陸沿岸の宮古市、釜石市、大槌町等の医療、介護関係者から実情をヒアリングさせていただいた。同県では3か所の県立病院が全壊するなど甚大な被害が生じていたが、全県下、二次医療圏、各市町村という三つのレベルでの意見交換が進んでおり、在宅医療を含む地域包括ケアの機運が高まる形で復興が行われていた。第二に、岩手県一関市藤沢町(藤沢病院)、長野県佐久市(佐久総合病院)、埼玉県和光市など、医療、介護の先進事例を視察し、分析を行った。第三に、岡山県新見市において医療・介護のあり方に関する検討を市役所、関係者とともにに行った。第四に、障がい者を支援するための地域包括ケアのあり方を検討するため、障がい者や家族と交流し、関係団体から実情を伺った。

(2)平成25年度には、岩手県の県立病院事業経営委員会に引き続き参加するとともに、県内の行政や医療・介護関係者と意見交換した。被害を受けた各病院の移転・建設計画がまとまるなど着実に復興が進んでいた。第二に、政府の介護特区に指定された岡山市で、市役所職員、保健医療科学院の筒井孝子氏らとデイサービスの質の評価に関する意見交換を行い、今後の研究の方向づけを行った。高梁市において、超高齢化及び人口減という状況下における医療・介護のあり方を議論する委員会に参加し、報告書のとりまとめを行った。倉敷市、赤磐市、笠岡市、真庭市において、今後の人口動向を踏まえて、地域包括ケアのあり方を考察し、市民や市役所担当者や市議会議員らと意見交換した。第三に、各研究者が論文を執筆し、『医療経済学・地域医療学』という書籍を刊行し、これまでの活

動成果を取りまとめることとした。

(3)平成26年度においては、前述の書籍を刊行し、岡山大学等の学部生や大学院生に地域医療、地域介護、これらとまちづくりとの関連について教育を行った。さらに、都道府県における地域医療構想(ビジョン)の策定が政策課題となっていることにかんがみ、地域における「医療機関の機能分化と連携」を通じた街づくりの方策を研究することとし、研究者、行政官、市民らが参加する「地域医療計画実践コミュニティ」という研究会に参画した。この研究会では、「機能分化と連携」のパートの執筆や取りまとめを行った。これまでの研究を総括する論文を執筆するとともに、研究報告書を執筆、編集した。

4. 研究成果

(1)平成24年度においては、被災地や中山間地等の実情を調査し、分析することにより、各地域に共通の問題として、

医療、介護、予防、生活支援(高齢者の買い物などの交通の確保、認知症者の見守りや権利擁護など)、住まいといった様々なサービスを身近な地域でどう確保するか

近隣の助け合いを含め、自助、互助、共助、公助をどう組み合わせることが適切か

市町村国保や介護保険の財政をどう健全化するか

医療・介護が地域経済や雇用に与える効果をどう評価するか、

といった問題があることが明らかになった。同時に、てんかんをてがかりとして、障害をもつ人とその家族のための地域包括ケアを研究した。障害の治療に関する診療ネットワークを作るとともに、障害をもつ人と家族が身近な地域で適切サービスが受けられるように、当事者を支援する団体、行政、医療、教育、福祉の関係者が当事者と家族を包み込むような「顔の見えるネットワーク」が必要であると結論づけた。

(2)われわれの研究の特色は、各地域の自治体や医療、介護関係者と連携・協働しながら地域の実態に合った地域包括ケアの体制構築を目指すことにある。平成25年度までに、岩手県・岡山県、岡山市、笠岡市、赤磐市、倉敷市、真庭市などとの人的なネットワーク形成の実績を積み重ねた。各研究者は「地域医療の本質は何か」「地域医療の課題と解決方策」「地域医療や在宅医療の実践事例」「医療政策における地域医療の位置づけ」などについて論文を執筆した。「医療政策における地域医療」という論文では、地域医療の先進事例として広島県尾道市と岡山県高梁市川上地区の例を取り上げ、ベビーブームの世代が全員75歳以上になり、医療・介護ニーズが急増する「2025年問題」に対処するためには、大都市、地方都市、過疎地域といった各地域で、その実情に応じて、全体の街

づくりの中でどのように医療・介護問題を解決していくのか、そのマネジメントが問われている、との主張を行った。これらの論文をまとめて『医療経済学・地域医療学』というテキストとして出版した。

(3)平成26年度においては、都道府県における地域医療構想(ビジョン)の策定が課題となっていることを踏まえて、「医療機関の機能分化と連携」についての研究を行った。研究者、行政官、市民で構成する研究会に参加し、「(医療機関の)機能分化と連携」について執筆ととりまとめを行った。医療機関の機能分化の現状と課題、アンケートによる都道府県職員の意識とニーズ、医療提供体制のあるべき姿と都道府県に推奨する施策、医療再編や医療機関統合の事例の分析などを執筆し、編集した。成果は『地域医療ビジョン・地域医療計画ガイドライン』としてとりまとめられ、出版された。

・これまでの研究を総括するものとして、「地域医療構想(ビジョン)・地域包括ケアと大学人の役割」という論文を雑誌に発表した。地域医療やまちづくりにかかわる大学人の役割として、行政担当者に対するデータ分析等の指導、二次医療圏などの地域におけるコーディネータの役割、ビジョン策定にあたっての理念の明確化を提案した。同時に、研究者が地域の街づくりにかかわっていく方法と、地方自治体との協働、地域医療機関との連携による地域医療教育の実践などの実績の積み重ねについても提言を行った。

・これまでの研究成果である論文を編集した研究報告書を作成し、研究者、行政関係者、学部学生、大学院生、医療・介護関係者に配布した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7 件)

- 勅使川原早苗, 岩瀬敏秀, 金森達也, 川畑智子, 佐藤勝, 片岡仁美. 岡山大学勤務医師による非常勤勤務を通じた地域医療支援の現状調査. 岡山医学会雑誌. 査読あり、127 巻第 1 号. 2015、13 - 17
- 浜田淳, 地域医療構想(ビジョン)・地域包括ケアと大学人の役割、病院、査読あり、74 巻、2015、192 - 194
- 片山陽子、長江弘子、齋藤信也、酒井昌子、がんを含む慢性疾患 3 類型別にみた訪問看護師の予後予測の的中率と症状との関連. 在宅ケア学会誌 7(2), 査読あり、2014、37-43

- Yamamoto T, Kajikawa Y, Otani S, Yamada Y, Takemoto S, Hirota M, Ikeda M, Iwagakai H, Saito S, Fujiwara T : Protective Effect of Eicosapentaenoic Acid on Insulin Resistance in Hyperlipidemic Patients and on the Postoperative Course of Cardiac Surgery Patients: The Possible Involvement of adiponectin. Acta Medica Okayama、68(6), 査読あり、2014、349-361
- Nakamura K, Shimozuma K, Suzukamo Y, Taira N, Shirowa T, Shibahara H, Saito S: Assessment of Response Shift and True Change Using Structural Equation Modeling for Health-Related Quality-Of-Life Scores In Patients with Breast Cancer after Surgery. Value in Health 17(3), 査読あり、2014、p94
- 齋藤信也、緩和ケアにおける Quality Indicator の役割、成人病と生活習慣病、査読なし、43 (6)、2013、730 - 736
- 浜田淳、障害をもつ人と地域包括ケア、小児科、査読あり、54 巻 2 号、2013、235 - 240

[学会発表](計 7 件)

- 浜田淳・石川雅俊、機能分化と連携、第 9 回医療の質・安全学会、幕張メッセ、2014.11.22
- 浜田淳・石川雅俊、機能分化と連携編、東京大学公共政策大学院医療政策教育・研究ユニットのシンポジウム、東京大学武田ホール、2014.10.11
- Noto S, Shimozuma K, Saito S, Shirowa T, Fukuda T, Ikeda S, Igarashi R, Moriwaki K. A Comparison of Value for Health States Worse Than Dead Between Japan and UK. ISPOR(International Society for Pharmacoeconomics and Outcome Research) 16th Annual European

Congress Amsterdam, Holland

2014.11.10

齋藤信也：医療経済評価における QOL 値測定．国際医療経済・アウトカム研究学会 ISPOR 日本部会第 10 回学術集会 星陵会館 2014 年 8 月 29 日

齋藤信也、片山陽子、酒井昌子、長江弘子：非がん在宅患者のエンドオブライフ

ケアにおける医師と訪問看護師の連携について 第 19 回日本緩和医療学会学術大会．神戸国際会議場、2014 年 6 月 19 日

齋藤信也・吉川あゆみ、在宅看護における医師の指示と看護師の裁量について、

日本看護研究学会第 39 回学術集会、秋田県民会館、2013.8.22

岩瀬敏秀・金森達也・佐藤勝・片岡仁美、岡山大学医学生における地域医療のイメージ、将来の専門性、希望勤務施設に関する意識調査、第 45 回日本医学教育学会

大会、千葉大学亥鼻キャンパス、2013.7.26

〔図書〕(計 4 件)

浜田淳ほか、岡山大学出版会、現代公共政策のフロンティア、2015(近刊)、215 - 227

浜田淳・齋藤信也・片岡仁美・岩瀬敏秀ほか、岡山大学出版会、医療経済学・地域医療学、2014、1 - 135 ページ

伊藤雅治、浜田淳ほか、地域医療計画実践コミュニティ編、厚生労働統計協会、地域医療ビジョン/地域医療計画ガイドライン、2014、118 - 137 ページ

齋藤信也、じほう、基礎から学ぶ医療経済評価、2014、127 - 146

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浜田 淳 (HAMADA Jun)

岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科・教授

研究者番号：70334886

(2) 研究分担者

齋藤 信也 (SAITOU Shinya)

岡山大学・大学院保健学研究科・教授

研究者番号：10335599

片岡 仁美 (KATAOKA Hitomi)

岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科・教授

研究者番号：20420490

岩瀬 敏秀 (IWASE Toshihide)

岡山大学・大学院医歯薬学総合研究科・助教

研究者番号：80614924

(3) 連携研究者